

はじめに



亀岡市長

桂川 孝裕

私たちのまち亀岡は、保津川やその後背にある里山などの豊かな自然をはじめ、アユモドキに代表される生物多様性、雲海や桜石などの自然資源、また多くの社寺や城下町、伝統行事や芸能などの歴史・文化にも恵まれています。このたび「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想と称しまして、これら亀岡の地域資源を抽出し、市の名所づくりや環境保全に活かす「ネイチャー・ミュージアム・プロジェクト」と、市民協働による花と緑あふれるまちづくりにより、快適で潤いのある生活環境や美しい景観を創出する「ガーデン・プロジェクト」を融合したまちづくり構想を策定しました。

今後この構想に基づくプロジェクトを通じて、市民の皆さまとともに亀岡の美しい原風景の再生や、花と緑を生かした景観と生物多様性ある自然を創出し、魅力ある地域の宝を創造することで、訪れる方々をおもてなしし、住む人が誇れるまちづくりを目指します。また、この構想で提案する様々なアイデアを基に、市民の皆さまとともに持続可能な取り組みを進めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、この構想の策定にあたりましては、京都学園大学、京都大学大学院において調査・研究いただいたほか、福井県立大学の進士五十八学長にアドバイザーとして御協力いただきました。また地域や関係団体、環境分野の専門家の皆さまに幅広い御意見をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、今後の構想推進にあたりましての御理解、御協力をお願い申し上げます。

平成30年3月

構想策定に寄せて



福井県立大学 学長

進士 五十八

「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想という名称がありますが、「まるごと」という部分が大事だと思います。「まるごと」のように全体を感じる事が日本から無くなってきています。これまでのまちづくりでは個別に道路を造ったり下水道を整備したりしてきました。しかし「風景」を忘れてしまう傾向がありました。「まるごと」とは、全部です。風景論でいえば、近景・中景・遠景、身の回りから遠くの風景まで、それから360度、建物も樹林も農地も、そしてそこに暮らす人々のライフスタイルの全てをいいます。だから全体を考えながらまちづくりをするということです。古くは明智光秀の時代からずっと、いやもっと以前から亀岡盆地は一つの世界として独自の文化と暮らし方を営々と作ってきて、そして現在のこの風景があります。米山俊直先生が「小盆地宇宙論」を唱えています。盆地は山なみで包まれたマイクロ・コスモス（小宇宙）だということです。一番落ち着くふるさとの構造だということです。その構造による環境や人間関係が全てを育むのです。子どもの頃、どういう所で、何を見て感動したか。そういう場所を探しますと、木漏れ日が差す場所や、田んぼや畑が思い出されます。そういう現代のまちづくりが忘れてしまった原風景を大切にすることがこれからのまちづくりでは必要となるでしょう。

さらに亀岡には興味深い歴史や地域資源が多くあります。ふるさとの歴史・文化に関心を持てば、自然にも関心が行くでしょう。そういった全てのものを大事にすれば、そこで暮らす住民は生き生きとします。歴史・文化を伝えていこうと地域で活躍する高齢者は元気に長生き出来ますし、地域の子どもや亀岡を訪れた方々、外国からの来訪者もこの自然豊かな土地に関心をもつことでしょう。そういう魅力的な都市が世界的観光都市・京都の隣に奥座敷としてあるわけです。この構想が市民のみなさんに理解され具体化されることで亀岡市はきっとオンリーワンのすてきな都市として繁栄し続けるでしょう。

平成30年3月